インドネシアにおける食品産業SMEsにおけるクラスター化の影響分析

（A comparison of clustered and dispersed small and medium enterprises in Indonesian food processing industry）

ムクハマド　ナジブ（東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程）

木南　章（東京大学大学院農学生命科学研究科）

八木洋憲（東京大学大学院農学生命科学研究科）

本稿では，インドネシアにおけるクラスター化（集積）した食品加工産業の中小企業（SMEs）と分散しているSMEsの間で，市場志向性の程度，イノベーションの実行，および経営成果がどのように異なるかを比較分析した。本研究の実施背景には，インドネシアにおける低所得者層にとって，SMEsが重要な，低価格食料品の供給源になっているという実態がある。さらに，インドネシア政府は，産業がクラスター化している地域に対して，金融的，技術的支援を導入しているため，クラスター内外の企業の比較を通じて，政策的示唆を得ることが期待される。

　本研究では，West Javaにおける従業員数100人未満の食品加工企業を対象としたサンプリングによる調査を実施した。まず，t検定により，クラスター内外の企業間の市場志向性，イノベーション，および経営成果を比較した。次いで，回帰分析により，経営成果と，市場志向性およびイノベーションの関連性について検討した。以上の結果から，第一に，市場志向性，イノベーション，および経営成果について，クラスター内外で有意な差がみられた。第二に，市場志向性とイノベーションのいずれもが，経営成果に結びついていることが確認された。第三に，クラスター化によって経営成果の向上はみられるが，食品産業のSMEsにおいては，市場志向性およびイノベーションによって経営成果が向上するという構造それ自体には，大きな差が確認されなかった。